上毛新聞　（第３種郵便物認可）

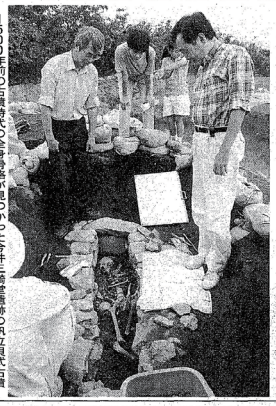
全身骨格出土で確認

古墳時代の追善儀礼

赤堀・今井三騎堂遺跡

東日本初　埋葬後、一部動かす

北関東自動車道建設工事に伴い、県埋蔵文化財調査事業団が調査を進めている赤堀町・今井三騎堂遺跡の帆立（ほたて）貝式古墳（全長一八メートル、ひつぎに当たる石棺（せきかん）が開けられ、骨の一部を動かす追善儀礼が行われた可能性が高いことが十日、田中良之・九州大学院教授らによって確認された。古墳時代に始まるとみられる追善儀礼はこれまで、九州・山陰で三例見つかっているが、東日本では初めて。田中教授は「元祖の霊に供養する追善儀礼が、古墳時代には広く行われていたことを実証した」と評価している。



多田山古墳群の一角にある、墳丁墓を調査している。帆立貝式古墳はその一つの自動車道の路り上採取予定地で、今回の調査では五世紀後半から七世紀までの古丘の中にある石棺（長さ・六尺、幅〇・三九尺）から見つかった。

全身骨格は歯の摩耗などから二十代の男性と推定され、頭骨、脊椎（せきつい）、骨盤、大腿（だいたい）骨の配置が崩れていないこと

1500年前の古墳時代の全身骨格が見つかった今井三騎堂遺跡の帆立貝式古墳

から死おむけに埋葬された。

とみられるが、しかし、すねの部分の腓（ひ）骨一本が右手付近に移されていた。また、男性の骨盤のでから、埋葬後、再び死者の骨を石棚に埋葬されたらしい。

始まったとみられ、これまで六六、鳥取などで三例が確認されているその一つ。

発掘を担当している同調査研究員は「石棚は地表面から五十㌢下で、盗掘を免れた上に周囲の環境変化が少ないことが幸いし、骨が残っていた。全身骨格は単独で埋葬された二十年前に赤堀町の隣山古墳群などで発見されているが、今回は非常に状態がよい」と話す。

鑑定に当たった佐田中教授は「周囲の骨の状態から石棚が再び閉じられたのは埋葬を行う一七、五人の親族が集まる儀式だったと推測できる。普段会えない人たちと交流できる楽しい大

祝出発　10年　10月　10日　幸せ記念日

婚姻届の提出相次ぐ

前橋市役所は十日午後五時までに六三組の婚姻届を受理した。一組目は付が変わって間もない午前零時五十分に訪れ、当直の職員を驚かせた。同市民課は「前八時ごろから職員一人が臨時出勤し、婚姻届専用の受け付け台を設けて対応した。同課の担当者は「平日の多い日でも二十件程度、祝日にこれほど多くの届けがあった日は記憶にない」と話していた。

高崎市でも午後五時までに六十組の婚姻届が提出された。市役所受付には「十一月一日から子どもが生まれるので、出来たのでは」と話していた。わらせば浜名鉄開社が午後五時現在でまとめたところ、十二市だけでも三百十一組に上った。各地三つの十が並んだ十一日、県内の市町村役場は「ようこそ」「おめでとう」と書かれたプルでにぎわった。上毛新聞